



学校教育におけるファシリテーション ③

～ファシリテーションの一連の流れ～

東京学芸大学教職大学院 准教授 増田謙太郎



Gakugei 東京学芸大学
Tokyo Gakugei University



ファシリテーションの一連の流れ

ステップ1
「問い」を作る

ステップ2
発散する

ステップ3
収束する

ステップ4
振り返る

授業用語でいえば・・・

導入

展開

まとめ

ステップ1

「問い」を作る

例えば・・・



これからいいクラスになっていくためには
どうしたらよいのだろうか？

問い



学級目標を決めましょう

「問い」があるから、子どもたちは考えやすくなる

ステップ2
発散する



学級目標を決めましょう

何事も全力で取り組む

いじめのないクラス

みんな仲良し

忘れ物をしない

元気にあいさつする

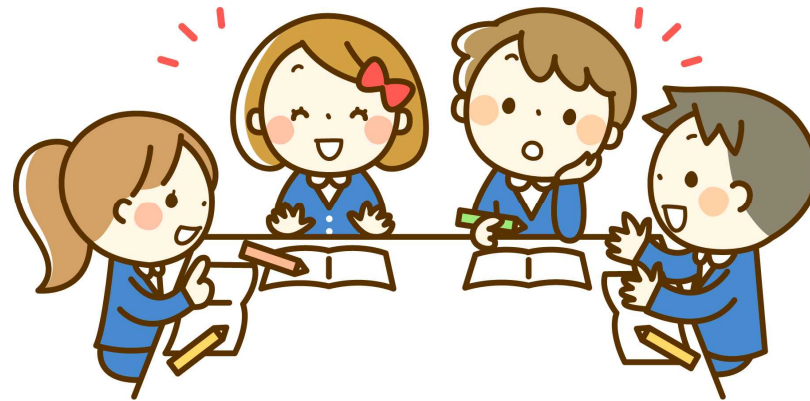
ルールを守る



数多くの多様な意見や考えが出てくるようにする

ステップ3

収束する



「何事も全力で取り組むクラス」がいいね!

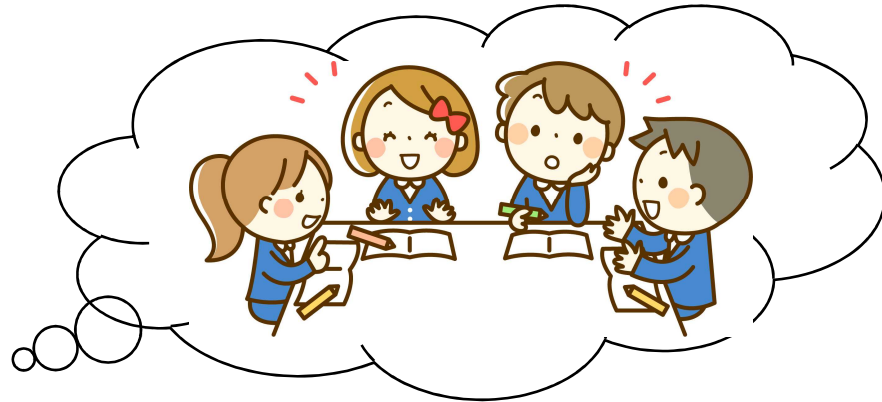
このテーマの場合は、意見を一つにまとめることが必要となる(クリアエンド)

ステップ4

振り返る



今日の話し合いを振り返ってみましょう



ちゃんとみんなの意見を
聞いて考えることができたな

自分自身の思考過程を見直したり、進歩の過程を確認したりする行為で、次の学びにつなげるためのもの

ファシリテーションの一連の流れ

ステップ1

「問い」を作る



教科の授業
でも

ステップ2

発散する

ステップ3

収束する

ステップ4

振り返る



オンライン授業
でも

それぞれをもう少し深めてみましょう



ステップ1

「問い」を作る

閉じた発問・開いた発問

- ・閉じた発問（クローズドクエスチョン）

「〇〇は△△ですか」のように「はい/いいえ」で
答えられる発問

- ・「開いた発問」（オープンクエスチョン）

「〇〇は何だろうか」のように様々な答えが
考えられる発問

ステップ2

発散する

アイデア出しの「ブレインストーミング」

考案者：アレックス・オズボーン

4つのルール

①批判厳禁：他人のアイデアを否定しない

②自由奔放：できる・できないの制約なし

③質より量：結果的に「質」を生むことに

④結合改善：人のアイデア＋自分のアイデア

KJ法

考案者：川喜田二郎



アイデアを出そうという雰囲気になる
アイデア出しのトレーニングになる
言うより書く方が心理的な負担が下がる

ステップ3

収束する

ハーフ&ハーフ

2つのアイデアを合体



ワンプレート

多くの考えを縮小してやってみる

トッピング

1つの考えに、他のアイデアを加えてみる

ハッピーセット

メイン1つとサブをいくつか

ステップ3

収束する

クリアエンド ひとつにまとめる

- ・何かを決めなければいけない場合
- ・はっきりとした答えがある場合

オープンエンド ひとつにまとめない

- ・子ども一人一人の考えを重視する場合

ステップ4

振り返る

- ・学習内容の振り返り



〇〇がわかりました

- ・学び方の振り返り



今度はもっと自分から質問できるように
したいです

参考文献

- ・片山紀子・若松俊介 授業ファシリテート入門 教室に話し合いを取り入れて深い学びを実現 ジダイ社 2019年
- ・安斎勇樹・塩瀬隆之 問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション 学芸出版社 2020年
- ・立川敬二・徳永幸生 「企業・地域の未来をつくる実践的アイデア発想法 『T式ブレインライティング』の教科書」 三冬社 2018年
- ・サトウタツヤ、春日秀朗、神崎真実（編） 質的研究法マッピング 特徴をつかみ、活用するために 新曜社 2019年
- ・カカムマサナリ 「ワクワクのつくりかた 一瞬で『欲しい!』と思わせるアイデア思考術」 KADOKAWA 2021年